

12月例会を終えて

主幹 会員拡大・会員開発委員会 会員開発委員会 委員長 熊谷勝弥
 会員拡大・会員開発委員会 会員拡大委員会 委員長 千葉晴一



この度12月例会卒業式を設営させていただき、佐藤哲君、足利哲也君、佐々木朋和君、蜂谷悠介君、浅野裕美君、菊池利行君の6名のメンバーが青年会議所を御卒業なされました。歴が長い方から短い方もおられますが、一関を少しでも変えようと一関青年会議所活動にご尽力なされた方々だと思います。私も青年会議所に入会して間もないですがメンバーから卒業生への送辞や、卒業式を設営する上で色々調べる中で卒業生の方々の功績を知ることができ私自身凄く刺激をいただきました。個人的な感想になってしまうかもしれませんが、本年度は卒業生・OB・メンバーの笑顔が多くとても楽しい雰囲気であったと感じます。このような卒業式を行えたのもメンバーの皆様のお力添えがあったからこそだと思います。本当にありがとうございました。

しかし、設営する側の委員会、個人としては多くの課題と向き合う例会でした。OBへの案内状の発送や、お願い文章の作成などもっと早めに行動し設営しなければならなかったと思います。また、この度の例会には本年度らしさがたらずもっと委員会内で話し合い作りこむ必要があったとも感じました。今後対外事業を行う際はこの度の反省点を改善し行ってまいりたいと思います。



康宮司の ありがたいお言葉



師走の最終回「やっと毎月の催促に怯えることが無くなる」と思うと不思議と筆も運びます。さて、突然ですが、皆さんの宗教はなんですか。恐らく、仏教、または無宗教であるとお答えになられる方が多いかと思いますが。海外ではキリスト教やイスラム教などの宗教を信仰している方が多く、生活に宗教が密着していますが、日本では、一定の教えや戒律に基づいて生活をしていないので、無宗教であると感じているのではないのでしょうか。

宗教とは、酒は飲むな、禁欲をせよ、これは食べてはいけない、愛をもちなさい、かたっ苦しいイメージがあるのが実情かと思いますが、事実生活とかけ離れていると思われている方がほとんどだと思います。しかし、実は身近なところで形式な人生儀礼として自然と関わっている方がほとんどではないかと思っています。

これから新年を迎えますが、お正月の初詣、皆さんはどこに行かれますか？一年の計は元旦にあり、との言葉もあり、新年の歳があらたまった清々しい気分と共に、新年のご挨拶や願いをしに、多くの方は神社へ参拝されるのではないのでしょうか。

その他にも、七五三や初宮詣（赤ちゃんが生まれた時に初めて神社へお参りする儀式）、厄祓等、その節々に神社へ向かう方は多いかと思っています。

そう、実は神社は【神道（しんとう）】という宗教のひとつなのです。皆さん無宗教といいながら既に、自然と宗教に触れているのです。

そもそも一般的に宗教には、教え（経典）があるのが普通です。キリスト教には聖書、イスラム教にはコーラン、仏教はお経です。それでは、神道には教えはあるのか、という、実は全くありません。

この様に表現すると、そもそもどの様にして神道が生まれたのか。そして何を伝えてきているのか。という疑問が出てくることと思います。

これを紐解くには、元になるのは古事記（こじき）という歴史書が登場することになります。そう、歴史の授業でも登場した日本最古の書物になります。712年に編纂（それまで口伝にて伝承していたものを文書化した）したこの歴史書の中には、神様やこの国の成り立ちについて記述がされています。

要約しますと、日本は、八百万（やおよろず）の神、たくさんの神様がいて国土を創ったと記されています。初めに天と地が現れ、天の高い所にある高天原というところで、神々が次々に生まれていきました。やがて、男神イザナギと女神イザナミが地上に降りて、国を生みました。最初に淡路島、次に四国、そして隠岐、九州、壱岐、対馬、佐渡、最後に本州を生んで、この八つの島を《大八島国》（おおやしまくに）日本列島の誕生となります。

その後、大小の島々を生み、風の神、木の神、山の神等、多くの神様が生まれました。その後も次々と神様が生まれていき、やがて太陽のような尊い神様アマテラスが生まれて、その子孫が現在まで125代続いている天皇であると伝えていきます。

お気付きかと思いますが、神道の元になるだと書物といっても、これをしなさい、こうしてはいけない。といったことは一切記述されてはいません。

唯一言えることは、歴史を重んじること、また神様も色々な性格があり実に人間らしいということではないでしょうか。

他の国のキリスト教やイスラム教と大きく異なることは、一人の神様を大切にしない、では無く、日本では沢山の神様が存在していますよ、ということです。

11月は神無月（かんなづき）出雲では神有月（かみありづき）といい、全国の神様が出雲へ一同に会し、次の年の事を決める総会をする月とされています。そう、昔から神代の時代より日本は民主主義の思想が息づいている国なのです。

この争わずとことん話し合い協議、審議をするというのは、全国の神社で6月と12月の最終日に行われるお祓いの時に奏上（そうじょう）する《大祓詞》（おおはらいことば）（平安時代以前に起源があるといわれているもの）の内容も記されています。

日本の風土に生まれ育った先人や我々には、ありとあらゆるものに神は宿るという考え方は共通して理解できるもので、極端なことをいえば、ありのままの自然や状況を受入れることができる、おらかな精神性が宿っているとも言えなくありません。

神社は神道という宗教のひとつですが、無意識の中に息づき、まさに自然体のままに現在に存在しすぎていて、そのように意識はされていないものであるのかもしれない。

教義経典はありませんが、神道は日本人の自然に対する畏敬の念や感謝、日頃の心のあらわれのカタチを祭祀（さいし）＝神事としてあわしたものであると思います。

神職（しんしょく）は神様と皆様とを繋ぐ仲取り持ち（なかつりもち）として地域の皆様より委嘱されているのであり、決して神様と同類ではありません。そして神職の長は、法的に公的行事としては認められておりませんが、日頃より私的な行事として祭祀が行われている天皇陛下です。

神様よりこの国を預かっている天皇が、日頃国民の平安を祈られているからこそ、テレビの画面上からも、その和やかなでお優しいお姿を感じられるのだと思います。

末筆になりますが、平らかに安らかにお過ごしになられますよう、ご祈念申し上げますと共に一年間乱文へお付き合い下さいましたことに感謝申し上げます。最後に、二つの言葉をお伝えさせていただきながら最終回の最後といたします。

「ものあわれをしる」 本居宣長

明治天皇御製
 目に見えぬ神のところに かようこそ
 人のこころのまことなりけり

浅野の感想☆ 康さんの原稿はいつも長文難解文で読むのもやっとなりましたが、最終号の原稿は長文中の長文(〃)毎号連載してるんだから自分の尺を分かってるだろうが！と叫ぶくらいの長文(〃)でも思い出しました。以前、蚊の鳴くような声で「ありがたいお言葉と言いながら掲載されているのは一番後ろの隅だね」と言っていたことを…。ずっと根に持っていたのだと思います。ですから最終号でページ1枚分の原稿を上げてきたのだと思います。神職も人間ですもんね。この原稿にも「神様と同類ではない」と自ら書くくらいですから真人間なのでしょう。今回も康さんらしい言い回しで途中何度も休憩を挟みましたが読み応えのある最終連載でした☆康さん12回の連載お疲れ様でした！そして今までありがとうございました(#^_^#) またいつかどこかで